

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年 5月20日現在

機関番号：12301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23650373

研究課題名（和文） 男性教師の専門的力量を活用するー必修化時代を迎えるダンス授業の実践的力量の解明ー

研究課題名（英文） Analysis of a teacher's practical thinking in a dance lesson ; From comparison of skillful teacher, unskilled teacher, and leading teachers (male's) practical thinking .

研究代表者

松本 富子 (MATUMOTO TOMIKO)

群馬大学・教育学部・教授

研究者番号：70106897

研究成果の概要（和文）：1単位時間(50分間)のダンス授業における実践的思考を調査し記録した。記録は思考命題によるカテゴリーを用いて分析された。

その結果、熟練教師と未熟練教師との間に有意な差が認められた。それらは、「思考命題総数」、「教授命題総数」であり、また、教授に関する「推論」、そして教授に関する「代案」であった。「学習に関する命題」については、学習に関する「推論」、「教材理解」であった。

中堅教師(男性)と熟練教師との間に有意な差は認められなかった。しかし、未熟練教師との間には「思考命題総数」において差が認められた。また、「教授命題総数」については、未熟練教師との間に有意傾向が認められた。中堅教師(男性)は、熟練教師に類似した思考傾向があるが、しかし有意差が認められない。個人間の差の影響であることが推察された。

研究成果の概要（英文）：The practical thinking in the dance lesson of 1 unit time (for 50 minutes) was investigated and recorded. Record was analyzed using the category by a thinking proposition.

As a result, the significant difference was accepted between the skillful teacher and the unskilled teacher. They were a "thinking proposition total" and an "instruction total", and were "reasoning about instruction", and "the alternative plan about instruction." About "the proposition about study", they were "reasoning about study", and "a study understanding."

The difference significant between a leading teacher (male) and a skillful teacher was not accepted. However, about the "thinking proposition total", the difference was accepted among unskilled teachers. Moreover, about the "instruction total", the significant tendency was accepted among unskilled teachers. A significant difference is not accepted although a leading teacher (male) tended to have performed thinking similar to a skillful teacher. It was guessed that it was influence of individual difference.

交付決定額

(金額単位：円)

|       | 直接経費      | 間接経費 | 合計        |
|-------|-----------|------|-----------|
| 交付決定額 | 1,100,000 | 0    | 1,100,000 |

研究分野：体育科教育学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・身体教育学

キーワード：ダンス授業の実践力 教師の実践的思考の解明 男性教師 熟練教師と未熟練教師 オンライン・モニタリング法 認知心理学的教師研究

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、組織的観察法を用いてダンス授業を量的質的にとらえ、よりよいダンス授業の条件を実証的に明らかにしてきた。(ダンス領域における課題解決学習の再評価－行動科学に基づいた量的質的検討－科学研究費補助金基盤研究C、ミズノスポーツ振興会研究助成他)。

現在、中学校ではダンス必修化時代を迎えることから、国内的に男女必修化に関する調査が行われたり、各県でダンスの実技研修が行われている状況がある。研究代表者は、必修化に対応する学校や教師に対する実態調査、ダンス実技研修に対する成果に関する実態調査を行い、年間計画や男女教師による授業対応の実際、男性教師のダンス経験や研修成果、授業実践への課題の解消などについての現状をとらえて来ている。また、研修を得た男性教師にダンス授業を依頼し、実践記録を収集するとともに生徒による授業アンケートを行い、ダンス指導経験の少ない男性教師の授業実践を対象とし実証的に検討する研究を、同時的に展開している。

本研究は、これまでの調査研究、実証研究をさらにシフトし、求めるダンス領域の授業実践力の内実を明らかにするものである。中でもダンス指導熟練教師や初任教师、男性教師の実践的思考活動に着目して比較研究をすすめることによって、その性格や特質が明

らかとなることが期待できるため、当研究は教師の専門的力量を解明しそれを向上させる上で、不可欠な研究であると考えた。

「教職のような複雑な専門領域では、状況との繊細で敏感な相互作用を基礎として、技術や知識の運用が選択され方向付けられているのであり、そのような実践的な思考の形成が熟達の内実を形成している。」(佐藤学1990)が、本研究は、こうした教師の専門的力量やその熟達など教師教育に関する研究に属すテーマを扱うものである。結果として、ダンス領域の教授に固有の実践的知識や実践的な思考様式の特質をとらえる事ができれば、初任教师や指導経験の少ない教員の力量形成に寄与することができる。特に、男性教師の専門的力量に着目して分析することによって、それらは体育一般に援用される力量か運動領域独自な力量かなどについて貴重な学術情報となるであろう。

### 2. 研究の目的

ダンス必修化の時代に入り、男子生徒も必修でダンス経験を持つことから、今後男女共習や男性教師による指導の機会が増すと考えられる。学校の制度や運用のなかで、男性教師は、スポーツ領域については指導経験を深めているものの、ダンス領域に関しては指導経験が圧倒的に少ない。教師養成を担う大学においてダンス指導についても学んでい

るにもかかわらず、学校現場に入ると男性教師はダンス指導から遠ざけられたところで教師歴を重ねてきた。男性教師の力量をダンス領域に活用することによって、男子生徒も取り組むダンス授業の新たな教材づくりや男性教師がチャレンジしやすいダンス指導の展開など、今後、男性教師の参画によって豊かな視野を獲得することができると思われる。

教師が熟達させている専門的力は、授業過程における実践的思考様式の形成とそれに基づいて獲得された実践的知識であるとされる。スポーツ指導ダンス指導において発揮される専門的力、言い換えればスポーツやダンスの授業過程における実践的思考様式の形成とそれに基づいて獲得された実践的知識とはどのようなものかについて明らかにするとともに、教師が保有する体育授業で発揮されるこれらの専門的力を実証的に取り出す方法が必要である。そのひとつとして、授業のモニタリング過程に現れる教師の思考活動を抜き出し比較分析した佐藤の研究が役立つ(1991 佐藤学)。

そこで、本研究ではダンスの授業過程において教師が発揮する実践的思考に着目し、実践的実証的にとらえることによって、熟達へと向かう教師の実践的指導力について検討する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 調査対象

授業の実践過程に即応して教師の実践的思考をとらえることができるように、オンライン・モニタリング法ならびにオフライン・モニタリング法を用いることとした。調査対象は、教職経験およびダンス指導経験の2ファクターからなる条件に適合する教師から群を設定する。また、可能な限り男女別に教

師群をつくることし、3群～最大5群をめぐりに対照群を作成した。については、また、視聴する創作ダンス授業の題材について指導した経験がある対象とすることとした。

男女別に以下の条件に適合できる範囲で対照群を設定する。

- ・熟練教師群：教職経験 20 年以上，創作ダンス授業指導 20 年以上
- ・中堅教師群：教職経験 10 年以上，創作ダンス授業経験 3 年まで
- ・未熟練教師群：教職経験 3 年未満，創作ダンス授業指導 3 年未満

#### 調査および分析の方法

#### (2) 調査に用いる授業映像の作成

創作ダンスでよく知られているスタンダードな題材を用いた授業で、一定のまとまりをもって実践できる中堅教師による授業とし、教師の指導言語をマイクで収録しながら2台のカメラで教師の指導行動と生徒の学習活動が同時に記録できるようにして撮影した。撮影された2本のDVテープを用いて、一時間の授業の流れが把握でき、しかも教師と生徒の活動のそれぞれについて理解されるように場面を編集し授業映像とした。

#### (3) モニタリングと記録方法

調査に際しては、全対象者に同一のダンス授業映像を観察してもらい、授業過程における対象者の思考を二種の方法を併用して記録収集した。オンライン・モニタリング法とオフライン・モニタリング法であり、それらの記録である。前者では、授業を観察しながら気付いたり考えたりしたことを即時的に言葉にってもらい、その音声をマイクを通してカメラに授業映像と共に記録した。後者では、授業視聴終了後、あらためて感じたり考えたりしたことを好きにだけ記載してもらった。

#### (4) 記録の分析方法

記録した音声は、調査後日、時系列にそって逐語記録を作成し、発話プロトコルを作成した。それらすべてを一つの意味内容を持った命題を一単位として分け、思考データに作り直した。その後思考命題を分類するための分析カテゴリーを用いて分類すると共に、その傾向について分析を加えた。検定は分散分析を用いて統計的処理をおこなった。カテゴリー分析項目は創作ダンスに適合するよう、佐藤（1991）のカテゴリーに修正を加え援用した。

#### 4. 研究成果

男性教師（中堅教師）、熟練教師、初任教師（未熟練教師）の思考命題の各出現数を対象群別に検討した。結果は次のようなものであった。

(1) 対象教師の1単位時間における群別平均命題総数は、100, 97, 37であった。分散分析を行った結果、命題総数については3群間に差が認められた ( $p < 0.05$ )。中でも男性教師、熟練教師はそれぞれに初任教師との差が認められた ( $p < 0.05$ )。

(2) 思考命題の内容は「教授」と「学習」の2側面に大別される。「教授」に関する群別平均命題数は、48, 54, 21となり、3群間には差が認められなかった ( $p = 0.06$ )。しかし、熟練教師と初任教師との2群間には差が認められた ( $p < 0.01$ )。「学習」に関する群別平均命題数をみると52, 38, 21であった。「学習」については3群間2群間にも差は認められなかった。

(3) 「教授」の下位項目である「事実」「印象」「推論」のそれぞれに出現した思考の命題数は35, 47, 290であった。特に「推論」が顕著に出現した。「推論」290について群別に平均命題数をみると35, 47, 15となり、3群間に差は認められなかったが、熟練教師と初任教師

の間には差が認められた ( $p < 0.05$ )。

同様に「学習」の下位項目である「事実」「印象」「推論」のそれぞれに出現した命題数をみると83, 125, 101であり、「印象」「推論」「事実」の順に多く出現した。「印象」は群別平均命題数が20, 15, 6であったが3群間2群間共に差が認められなかった。「推論」については群別平均命題数10, 18, 5であり、3群間に差は認められなかったが、熟練教師と初任教師の間には差が認められた ( $p < 0.05$ )。

(4) 「教授」に関する命題「推論」については、さらに詳細に検討するために「意図」「代案」「見通し」の下位項目を設定した。出現した命題数は96, 147, 41となり、「代案」が最も多く有意に出現数が多かった。「代案」の群別平均は16, 29, 4であり出現に差が認められた ( $p < 0.01$ )。特に熟練教師と初任教師の間には差が認められた ( $p < 0.05$ )。

(5) 「学習」に関する命題については、「教材理解」に関する思考の状況をとらえるために、「教材理解に関係する」命題、「教材理解に関係しない」命題の項目を用い、また、「教材理解に関係する」命題の下位項目として「理解の内容」「理解の兆候」の2項目を設定した。その結果「教材理解に関係する」命題は群別平均33, 31, 11となり、熟練教師と初任教師の間に差がみとめられた ( $p < 0.05$ )。

以上のことから、一単位時間の授業過程に生じた「教授」や「学習」に関する思考において、対象とした熟練教師、男性教師（中堅教師）、初任教師（未熟練教師）の3群の教師には、次のような実践的思考に差異があると考えられた。

本研究の対象においては、1単位時間に出現した思考において、教師の属性によってその総数や内容によって有意な差が生じた。

特に、熟練教師と初任教師において有意な差が生じたが、それらは、1時間内に出現する

思考総数、「教授」に関する思考の総数においてであった。初任教師の思考数は即時的な思考としては少ないように思われた。「教授」に関する思考では「推論」に差が生じ、また、「推論」の中でも、特に「代案」に関する思考に差が認められた。

「学習」に関する思考については、その総数については熟練教師と男性教師、初任教師の間に統計的な差は生じなかったが、「学習」に関する「推論」において、また、「学習」の「教材理解」に関する思考数において差が生じた。これらの思考の差は熟達した教師であってこそ可能になる思考であったり、必要とされる思考と考えられ、それらをよく表していた。

男性教師については、1 単位時間の授業に出現した思考命題総数において初任教師との間に差が生じたが、それ以外の思考については、熟練教師とも、初任教師とも有意な差は認められなかった。しかし、「教授」に関する思考総数では、初任教師との間に有意傾向が認められた。つまり、男性教師は熟練教師と同様の数の思考を展開しており、初任教師との違いがあり、また、「教授」に関する思考総数においても、10%水準ではあるが初任教師と差が現れていることが認められた。しかし、思考の内容について有意な差が認められないのは、男性教師群においては分散が大きいことが観察されたことから、思考内容が対極的であるなど平均思考数に影響を与える要素があるのではないかと考えられる。

この結果を踏まえると各群の教師の実践的思考の姿は次のように考えられた。

熟練教師は、初任教師とは異なり1時間の授業において97 命題という多くの思考を展開し、「教授」や「学習」に関心を持ち思考を巡らせていた。特に「教授」に関する思考においては明らかに、熟練教師は、授業者の

指導の「事実」や「印象」について思考を巡らすというよりも、「推論」を巡らせることが多く、授業者の指導の「意図」(26%)にふれながらも、その62%は指導の「代案」について考えを巡らせていた。学習者の「学習」に対しては、その「印象」や「推論」に関わる思考を巡らし、しかもその多くは「教材理解に関する」思考を巡らすものであった。つまり、熟練教師の思考は、学習者の「印象」や「教材理解」に注意を払い学習状況を見取ろうとするものであり、意図や代案などについて「推論」を進めながらその解決を図ろうとするものであったと考えられた。

初任教師は1 単位時間に巡らす思考の数が37 と少なく、熟練教師の思考数の38%にすぎなかった。そして「教授」については、熟練教師とは異なる傾向を示した。具体的には「推論」の64%が指導の「意図」に向けられていたことである。授業者の意図を押し量り授業理解に向けた段階の思考であったと考えられる。他方「学習」については、「印象」「推論」「教材理解に係る」思考を巡らすようとするが、出現数は平均5~11 と少なく、授業実践に対応するには十分とは言えない。

男性教師は、熟練者と同様多くの思考命題数100 を示した。「教授」に、あるいは「学習」に、またはその両方にとその比重は異なったが、授業に関心を持ち多くの思考を巡らせていた。「教授」に関する思考の内容は、熟練者と同様に「推論」が多く行われたが、その内容は「代案」(45%)に加え指導者の「意図」(29%)に思考を巡らすものであった。しかし、熟練者に比べ「代案」の比率は少なく、授業の意図を押し量りつつ授業を理解しようとする思考は、初任者と重なるところであった。また、「学習」に関する思考については熟練教師とは異なり、「事実」や「印象」についての思考が中心であった。原因や理由

を押し量ったり代案を考えたりする「推論」は20%と少ないものであった。このほか「教材理解」に関係ある思考数に関しては、熟練教師と類似しているが個人間に差がみられた。男性教師については、初任教师よりも授業における即時的即興的に実践的思考を發揮していると考えられる。しかし、創作ダンスにおける指導者の意図や学習者の姿を見取り、代案や見通しを持つには、さらなる授業経験と専門的な知識が必要であろう。

本研究の目的では、できるだけ実践場面に近づけた実践的実証的調査によって、熟練教師、中堅教師（男性教師）、未熟練教師（初任教师）の思考の一端が明かになった。特に、男性教師（中堅教師）の思考を熟練教師と初任教师（未熟練教師）の思考と比較考察したことにより、創作ダンスにおける教師の授業実践力、実践的思考力の解明にむけて、また、男性教師の専門的力量的活用に向けては基礎的データを得られたことにより一歩前進できたと思われる。本研究対象である男性教師は創作ダンス3年までの経験を有した教師であり、初任教师は3年未満の経験者であった。今後の実践を重ねることにより、どのような変化がもたらされるのか興味深いところである。さらに継続したい。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計1件）

松本富子, 中村なおみ, 小林峻, ダンス指導法実技研修にみる現職教育の成果に関する検討, 群馬大学教育実践研究, 査読有, 第30号, 2013, pp105 -pp117

〔学会発表〕（計2件）

松本富子, ダンスの授業研究—授業実践を巡る諸テーマの探求とその方法、全国ダンス表現運動授業研究会, 2013.3.26-27, お茶の水女子大学附属小学校（東京都）

松本富子, 中学校創作ダンス授業における教師の実践的思考に関する研究, 群馬大学教科

教育研究会, 2013.2.28, 群馬大学教育学部（群馬県）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等 なし

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 富子 (MATUMOTO TOMIKO)

群馬大学・教育学部・教授

研究者番号：70106897

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし